

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

市民の願いは新しい政治 裏金なくして清潔な政治へ 危険な島根原発再稼働STOP

平和原発くらし 裏金一掃訴え 12日間の選挙戦終わる

10月27日に投票が行われた第50回総選挙で日本共産党は8議席(公示前10議席)を獲得しました。

田村智子委員長は、「自民党、公明党が与党過半数割れという歴史的な大敗を喫し、国民の皆さんが自民党政治に代わる新たな政治を模索し探求する」という、前向きなプロセスが始まった。この激動の情勢を生み出すことに日本共産党と「しんぶん赤旗」が大きく貢献した。裏金問題での徹底的な追及、選挙終盤での裏金候補者への2000万円支給の問題で、街の空気ががらりと変わったことは与野党ともに語っている。日本共産党

は、あらゆる分野で国民の皆さんとともに運動、たたくいを広げ、国民の願い、要求がかなうように、政治を前向きに動かすことへ全力を尽くしていく」と述べました。

選挙期間中松江市委員会では島根一区候補村穂えりこ氏が候補者カーで7日間、舟木健治、ひの伸一予定候補が4日間松江入りした政党カーから日本共産党の政策を訴えました。

18日には党副委員長山下よしき参議院議員と共に、中国ぶ元衆議院議員が松江市入り。山下氏は「国会議員時代の大平氏が安保法制の論戦で局面

を変えざるを得ない。災害が起きれば直ちに駆け付け被災者の声を国会に届ける大きな仕事をしてきた」と紹介。大平氏は、ノーベル平和賞



声援に応える山下氏、大平氏、村穂氏(18日)

竹矢ポンプ場 重油漏れ事故 党竹矢支部が水道局に要望

9月12日に松江市水道局の竹矢ポンプ場で重油が漏れ、近隣の八幡川などに流出した問題で、10月21日、党竹矢支部(岩本晃司支部長)が松江市に申し入れしました。松江市水道局から

小塚豊局長、杉谷雄二部長、桂昭治技監、飯野浄配水課長が参加、たちばなふみ市議が同席しました。申し入れ内容は、▽事故原因を明らかにすること、▽事故後の処理、周辺、下流への影響を明らかにすること、▽今後の事故防止の対策をたてること、▽以上

に関し、流域住民への説明会を自治会単位で行うこと4点です。

流域に住む鷺見さんは「1700リットルの重油が流出したとき、八幡川は、農業用水路でもあり、

シジミ、スズキ、亀、鯉、サギ、マガモ、白鳥など多様な生き物が生息している。意宇川と合流し中海、境港水道から日本海へつながっており、環境汚染を心配する声もある」と述べ、事故後記者会見や、地域への回覧で事故原因や対策については報告があったものの、市として市民に直接説明を行ってほしいと要望しました。小塚局長は「本当に市民の皆さんにご迷惑をおかけした。影響については今後も継続的に周辺の農家の方などにも意見を聞きながら調査していく。要望があれば説明会を自治会単位で行う」と応じました。

島根原発2号機 を動かさない 署名にご協力ください



島根原発2号機が12月にも再稼働されようとしています。
① 再稼働に対する県民の合意はありません。
② 県民の命を守る避難計画はできていません。
③ 核のごみ(使用済み核燃料)の処理方法は確立されていません。
11月末に提出します。20日までぜひ広げてください。



開票を受けて挨拶する村穂候補

が、核大国の手足を縛り核兵器使用を食い止めてきた被爆者の闘いに贈られたと指摘。石破首相はじめ「核共有」「核抑止」をうたう勢力と対決し、「日本政府は被爆の実相を世界に告発し、核なき世界の実現へ先頭に立つべき」と訴えました。

2号機の再稼働(12月予定)をストップさせるため、全力を挙げると訴えました。たちばな市議は市内各地で「大企業優先の政治から一人ひとりが大切にされる政治へ転換を。島根原発ストップ消費税減税を」と訴えました。



訴える舟木市議、樋野予定候補

政党カーから訴える たちばな市議

くらし子育てまちづくり 市民アンケート

お暮らしはいかがですか？
子育て、介護、駅前開発、原発などあなたの願いをお聞かせください。
8問あります。